

宮代町郷土資料館だより



第38号

新たに町指定文化財2件が指定

町指定文化財として、新たに前原遺跡出土旧石器時代石器群と、金原の関根家文書の2件が指定されました。

宮代町教育委員会では、町に所在する様々な文化財のうち、町にとって重要なものを順次指定していますが、平成21年度新たに前原遺跡出土旧石器時代石器群と、金原の関根家文書の2件が指定されました。それらの概要についてお知らせします。

前原遺跡出土旧石器時代石器群

前原遺跡は、宮代町の南部に位置する台地上にあります。昭和55年3月から56年3月まで約1年間に渡って、現在の前原中学校の校庭一帯、約12,000㎡の発掘調査が行われました。その結果、宮代町で最も古い旧石器時代約20,000年前の石器の集中場所2地点、縄文時代早期8,000年前の住居跡6軒、同時代後期約4,000年前の住居跡2軒を始めとして、多数の遺構、遺物が出土し、非常に注目を集めた遺跡です。

この前原遺跡のある台地先端部付近のロー

ム層中から、今回指定となった旧石器時代約20,000年前の石器群が出土しました。石器群は、2か所の集中地点から出土しました。それぞれ第1号ブロック、第2号ブロックと名づけ発掘されました。

第1号ブロックは、約4m四方の範囲から、黒曜石製のナイフ形石器(柄などに装着して突き刺したり、切ったり、削ったりしたと考えられている道具)16点、稜着石刃(切ったりする道具)2点、スクレパー(切ったり掻きとったりする道具)、コア(石核、石器に使う石を剥ぎ取って残った芯の部分の石)1点や、細かな剥片が多数出土しています。



第1号ブロック出土石器

第2号ブロックは、約10m四方の範囲に、ナイフ形石器3点、グレーバー（溝をほったりする道具）1点、角錐状石器（突き刺す道具）2点、スクレパー6点等が出土し、多くの接合資料に恵まれた点、特徴的です。

これらの石器群は、時期的には2万年前後のもので、第2ブロックの石器群がより古いものです。また、石材の黒曜石の産地は、第1ブロックが長野県和田峠、第2ブロックは栃木県高原山です。旧石器時代の石材の搬入ルートを考える上で、西と北の交差点となっていたことがわかります。こうした特徴とともに、宮代町最古の石器群として、また、研究史上も貴重な資料、89点が指定となりました。



第2ブロック出土石器

関根家文書

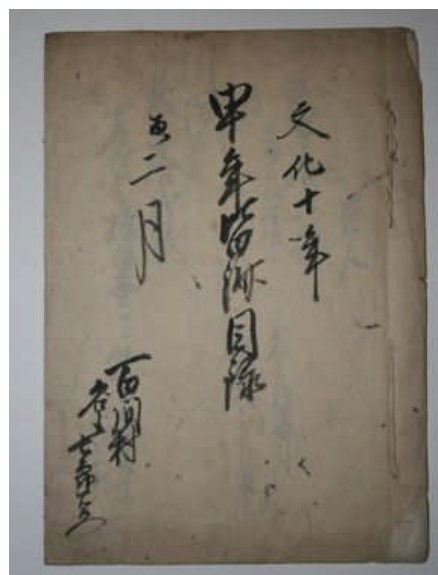
関根家は、江戸時代中期から後期前半までの約60年間、旗本松波氏知行の百間村金谷原組の名主を勤めていたことが確認されています。

古文書群は江戸時代中期からのもので、総数612点を数えます。このうち江戸時代のものは149点を数え、名主時代のものは約40点ほどです。基本的に明治期のものが多く見られます。最も古いものは、享保14年(1729)の逆井新田金谷原組検地帳です。このほか、年貢割付状、年貢皆済目録、年貢勘定帳、五人組帳、新検小帳、願書、用排水関係文書、下の谷新田絵図など、名主家でなくては見られない文書も多くあります。また、江戸時代中期の岩槻城絵図も発見されました。岩槻城絵図は、江戸時代前期領



岩槻城絵図(部分)

主の阿部家時代のものや、後期の大岡家時代の絵図は確認されていましたが、江戸時代中期の絵図は、岩槻城関係絵図としては初めての発見です。岩槻藩領時代の関係資料として貴重なものです。このほか、杉戸宿本陣（大塚伊兵衛の時代）の絵図も確認されています。また、名主後の文書としては、年貢皆済覚え、大島村（現杉戸町）籠絵図（概略図）、現在の越谷市である船渡村、平方村、川崎村等や、現在の松伏町の松伏村、現在の春日部市の新川村、藤塚村の略図などが残されています。



年貢皆済目録(文化10年 1813)

企画展 山崎遺跡発掘出土品展

埼玉県選定遺跡山崎遺跡は、宮代町で最も多くの発掘調査が実施されてきました。古くは昭和50年度の学術調査、最近では平成21年10月の発掘調査です。しかし、平成14年度以前の発掘調査は町道建設などが多く、部分的な調査のため詳細な遺跡の概要は分からない状況でしたが、平成18・19年度の調査は計約2,000平米にも及ぶ調査であったため、数多くの土器や石器と共に住居跡も4軒発掘されています。

今回の展示では昭和50年度、昭和62年度、平成2年度、平成11・12・14年度の新しい村関係調査、そして多くの調査成果のあった平成18・19・21年度の発掘調査の状況を当時撮影した写真パネルや出土遺物を用い展示したいと思います。

特に平成18・19・21年度の調査では、縄文時代後期前半の約3,700年前の住居跡が台地の斜面に3軒並んでいたことが確認されました。ほぼ同じ位置で昭和62年度にも1軒の住居跡が検出されていますので、4軒の住居跡が並び、その内3軒が焼失住居跡であることも確認されました。3軒の住居跡から検出された炭化材を分析したところ、3軒とも約3,700年前の住居跡であったことが分かっています。この他、約7,000年前の炉穴と呼ばれる屋外の炉の跡が37基、土器などのごみ捨て穴等と推定される土坑が35基検出されています。炉穴や土坑からは、多数の復元できる土器や宮代町で初めて見つかった土偶も出土しています。

古墳時代後期（約1,500年前）の住居跡も2軒検出されました。

平成18・19・21年度以外の調査では、昭和50年度の調査で細石刃を製作する過程でつくられる黒曜石のブランクや尖頭器、平成11年度第2地点で発掘された江戸時代前期の旗本等の陣屋や役所の堀も検出されています。この他、縄文時代早期後半の住居跡も計3軒検出されました。

山崎遺跡に関しては今回の展示会が初めての展示会となりますので、郷土宮代の歴史や遺跡について、是非ご覧ください。



企画展 見学風景



平成11年度第2地点堀跡



平成18・19年度地点第2号住居跡

「郷土の偉人・島村盛助」コーナーが新設されました！



展示の様子

常設展示室内に開設が待たれていた「郷土の偉人・島村盛助」コーナーが、3月27日(土)午後1時から公開開始となりました。

公開開始に先立ち、午前中には式典と内覧会が行われました。(この様子は町HPにあります。)

コーナーには盛助氏に関する貴重な資料が

いろいろと展示されていますが、なかでも、戦後の混乱期に宮代で編さん作業が行われた「岩波英和辞典 増補改訂版」に関する資料は、手書き原稿から校正用紙など、辞書が作られていく作業の経緯が詳細にわかる資料が展示してあります。また資料からは、一字一字にこだわりをもって編さん作業に当たっていた様子が克明にうかがえ、英文学者としての姿勢や盛助氏の生き方そのものをうかがうことができます。

このほか、夏目漱石や高村光太郎といった人物との交友関係を示す葉書や、盛助氏が執筆した小説などの作品が掲載された「ホトトギス」といった雑誌も展示してあります。

また貴重な資料の保存のため、ほとんどの資料に脱酸処理という特別な保存処理を行いました。(この内容については、別の号で紹介する予定です。)

みなさまのお越しをお待ちしています。

資料館寄贈者名簿

資料館日誌抄

- 10月24日 特別展「宮代の水害」(12月27日まで)
- 1月9日 企画展「収蔵品で語る宮代の農耕」(4月18日まで)
- 12月12・19日 古文書講座
- 12月22日 国学院栃木短期大学「歴史民俗フィールドワーク」(17名)
- 12月23日 第2回文化財保護委員会町内視察
- 1月14日 国納丸屋遺跡試掘調査
- 1月21日 山崎南遺跡試掘調査
- 2月16日 東遺跡試掘調査
- 2月20日 郷土史講座「日光街道と宮代町」
- 2月23日 小展示「雛まつり」(4月18日まで)
- 2月23日 道仏遺跡試掘調査(2月24日まで)
- 2月24日 第3回文化財保護委員会
- 2月27日 郷土史講座「粕壁宿を歩く・学ぶ」
- 3月6日 郷土史講座「杉戸宿を歩く・学ぶ」
- 3月13日 「つるし飾り作品展」(4月18日まで)
- 3月13日 郷土史講座「幸手宿を歩く・学ぶ」
- 3月22日 みやしる歴史散歩～西原地区～
- 3月27日 島村盛助コーナー内覧会、公開開始
- 3月29日 姫宮神社遺跡試掘調査
- 4月24日 企画展「山崎遺跡発掘出土品展」(7月11日まで)

島村 満彦 氏	資料、史料、書籍
金子 和生 氏	資料
斉藤 良吉 氏	民具
柿沼 久夫 氏	資料
折原 正英 氏	史料
松田 典男 氏	史料
斎藤勘五郎 氏	民具
西村 敏 氏	資料
中野 慎吉 氏	民具

宮代町郷土資料館だより えんがわ 38号

発行日 平成22年4月24日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>